

第40回(令和5年度 第2回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日時 令和5年11月29日(水) 10:00～
- 場所 黒部市役所 201・202 会議室
- 出席者 協議会委員 18名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第6条 第2項 第1号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
		富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
第6条 第2項 第2号	関係する公共交通 事業者等	黒部市タクシー協会 会長	神谷 尚機	本人出席	神谷慶志郎
		あいの風とやま鉄道株式 会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	欠席	
		関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所 長	川口 歳則	所長代理 岩井光彦
第6条 第2項 第3号	関係する公安委員会	黒部警察署長	藤井 敏雅	本人出席	
		黒部市自治振興会連絡協議 会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市民生委員児童委員協 議会 会長	藤澤 義信	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部ま ちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリー ダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会 会長	此川 昇	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議 会 会長	辻 順子	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環 境学科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部 交通企画課長	新倉 孝礼	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画 課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支 局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席	
		富山県交通政策局交通戦略 企画課長	有田 翔伍	主幹 谷村和則	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	欠席	
一般社団法人黒部・宇奈月 温泉観光局 代表理事		川端 康夫	事務局長 坂井英次		
YKK株式会社 副社長 黒 部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働 組合協議会 議長		石橋 剛	本人出席		
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	欠席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、川見課長、山崎班長、中係長、藤井主査、田村主任
(株)新日本コンサルタント：馬場、寺田

会議次第

1 開 会

2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）

3 報告事項

- (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
- (2) 路線バス事業の収支状況について・・・・・・・・資料 2
- (3) 暮らしのサポート便実証運行事業の実施状況について・・・・・・・・資料 3
- (4) 燃料価格高騰対策支援事業（公共交通分野）について・・・・・・・・資料 4
- (5) タクシー・バスドライバー向けおもてなし研修について・・・・・・・・資料 5
- (6) 黒部市地域公共交通計画アンケート調査結果（概要）について・・・・・・・・資料 6

4 協議事項

- (1) 黒部市地域公共交通計画骨子（案）について・・・・・・・・資料 7

5 その他（事例紹介）

「－福祉×地域×交通（移動）－新しい福祉サービス（Goトレ）開発」について

6 閉 会

開会

●定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。

○進行：川見課長

あいさつ（武隈市長）

●会長よりあいさつを行った。

本日は、第 40 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位におかれましては、ご多用の中ご出席いただき、また日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、8 月 30 日に J R 西日本より北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業日や運行計画が発表された。来年 3 月 16 日となった北陸新幹線敦賀延伸の P R イベントとして、8 月 19 日に「サクラ咲ク・フェスタ 2023～夏の陣～」が開催され、延伸先の加賀温泉駅・芦原温泉駅周辺の温泉地からも P R に参加していただくなど、敦賀延伸に向けた機運の高まりを感じているところである。

また、9 月 16 日には第 34 回目となる「黒部ワンコイン・フリーきっぷ“楽駅停車の旅” 2023 秋」の出発式が行われた。「くろワン」の愛称で親しまれる本事業であるが、今年は語呂合わせで「いい風呂」の日となる 11 月 26 日も対象日として追加されたと伺っている。

このほかにも、先月10月6日に、図書館や子育て支援センターなどの複合施設である、くろべ市民交流センター「あおーよ」がオープンしたほか、来年6月30日には「黒部宇奈月キャニオンルート」の一般開放も予定されている。

本日の協議事項である「黒部市地域公共交通計画」については、本市を取り巻くまちづくりや観光などの状況の変化も捉えながら、また、市民生活における暮らしの足の確保に向けて、黒部市の公共交通の在り方について皆様と議論を深めて参りたいと考えている。

委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を頂きますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひしたい。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 路線バス事業の収支状況について
- (3) 暮らしのサポート便実証運行事業の実施状況について
- (4) 燃料価格高騰対策支援事業（公共交通分野）について
- (5) タクシー・バスドライバー向けおもてなし研修について
- (6) 黒部市地域公共交通計画アンケート調査結果（概要）について

●事務局より、資料1～6に基づき報告を行った。

○武隈会長

今の報告をお聞きになり、ご意見や質問をいただければと思う。

○此川委員

利用者アンケートの回収率が大変低く、回収方法に問題があると感じている。アンケートを実施しているにもかかわらず、対象者から回収できていないと、利用者の本音がわからない。例えば、利用者に電話で確認するなど、別の方法もあると感じている。回収方法の改善についてお答えいただきたい。

○事務局

アンケートの回収については、令和元年度と同様に返信用封筒にて、紙媒体で返送いただいている。それに加え、今回の調査はWEBでも回答できるように改善している。アンケートのボリュームが多く、今回は回収率が下がったと考えられる。

○武隈会長

アンケートの回答率は、前回と比べてどうか。

○事務局

前回市民アンケートの回収率は42.8%であり、下がってはいるものの今回も同等の回収率である。他のアンケートの回収率も同様であるが、30%以上の回収率があれば、概ねのトレンドは把握できる。回収率から逆算し、配布数を2,000部に設定している。

市民アンケート以外のバス路線等のアンケートについても同様であり、利用状況を現在の回収数で把握できていると判断している。

○此川委員

今後の公共交通を検討する場合に、回収率について良い対策ができなければ、前進していかないと考えるが、その点についてはどうか。

○事務局

アンケートを取ることが我々の目的はなく、アンケートを踏まえて公共交通の運行をどうするかを考えている。回収率が高くなれば、より精度の高いアンケートが実施できると思うが、アンケート方法については間違っていないと考えている。

今回のアンケートはボリュームが大きく、回収率が下がったとの認識である。

○此川委員

了解した。ありがとうございました。

○下石委員

アンケートは何年も同じ取り方をしており、回収率も含め結果も同じである。改善したいことは理解できるが、何を変えるために質問を設けたのか不明である。多くの人からの的確な返答をもらうには、町会ごとにまちが抱えている公共交通の問題を、吸い上げていただきたい。ヒアリングは、アンケートの記載ができない人も発言しやすい。介護で一人暮らしであり、公共交通をうまく使えない人の悩みも吸い上げることができれば、公共交通と結びつけることができる。

郵送された資料をよく読んでみると、利用者だけにアンケートを取っている。公共交通を利用できない人に利用してもらいたいためのアンケートが求められている。少ない利用者の回答だけで、取組を検討するのは誤りではないか。

○菅野委員

アンケートの実施については、自治振興会の会長経験のある此川委員にも取り方をお尋ねしたい。

対象者が 2,000 人は少ないのではないか。本会議には自治振興会からも参加されており、各地区にお願いして実施することも考えられる。

なぜ公共交通に乗車しないのか。駅や停留所が遠いことが理由ならば、近い人は公共交通に乗車しているはずだが、恐らく駅等が近い方も乗車していない。この会議は、公共交通を利用してもらうために実施している。事務局に質問しても、毎回同じような回答しか返って来ないため、もっと前向きに実施すべきではないか。

例えば、新幹線市街地線であるが、黒部駅に行く際には利用したことがあるが、バスの時間帯が良くないため、並行して走る電車を利用する。もっと電車に乗ってもらうことを考えるべきである。

資料には、各路線バス・コミュニティ交通は一人当たりの収支の記載はあるが、1 便当た

りの利用人数の記載はない。暮らしのサポート便に関しては、1 便当たりの利用者数をあえて掲載している。収支金額だけでなく利用者数が大事であり、時間帯によっては運行を取りやめてもよい。

本会議に長く出席しているが、毎回同じ話で終わると感じており、ただ会議だけでなく、利用者がそれを理解しているかが大切であり会議に出席している各代表が持ち帰った際に、市民に話をしているかである。今現在、公共交通を利用しているのはYKKさんのみであり、議員も含め公共交通を利用することを考えていくべきである。

市長がいわれたように、市民交流センター「あおーよ」が新たにオープンした。駐車場の問題もあるが、高齢者を歩かせる仕掛けがない。高齢者の事故も多くなっている。市長がまちなかを歩かせたい気持ちがあるなら、すぐに実行すべきである。1年、2年後ではなく並行して行うべきだったと感じている。

11月26日に宇奈月温泉100周年を記念し、地鉄さんに了承いただきカレーマルシェを開催した。開催当日は非常に混雑しており、私も30分待ちであった。来場の際に電車を利用される方が多かった。そのような意味では、無理やりでも公共交通に乗車すべきである。委員をはじめ是非地域の方にも電車等を利用していただきたい。各団体がイベントでPRしていかなくてはいけない。無理やりでも乗車していただく必要があるのに、新幹線市街地線等は全く人が乗車していない。「乗らない人が悪い」のではなく、「自分が乗る」という発想の転換が必要である。よい意味で広くアンケートを取っていただきたい。アンケートではよい意見を掲載し、公共交通を利用するようにすべきである。

新幹線市街地線は、以前路線変更の話があったが、地元で反対があり実現しなかったが、その反対した人たちが現在乗車しているかであり、是非調べてほしい。

○下石委員

この春から公募委員として本会議に参加している。本会がどのように運営されてきたのかわからない状況である。前回と今回で同じような報告資料をいただいているが、大事な会議の場を利用し、前回と同じような報告をする必要があるのか。前回会議の議事録を公にしたい。本会議での議論の進捗を伝える場がなく、公募委員として役目を果たしていないように感じる。

前回の会議では、此川委員が介護に関する交通手段について、私は免許返納者のパートナーが免許を持っていない場合の改善など色々提案したが、それについての回答がないため、会議の中で進んでいかず同じことを繰り返しているようだが、何かの解決につながっているのか。その結果をいつどこで結果が伝えられるのか。改善されるタイミングが不明である。中心市街地の電動小型カートについて市議会だよりに市民に向かって返答していくと書いているが、進んでいない。本会議、市議会、市内部で話し合い決断するのか。何のために公募委員になったのか意味が分からないため、説明いただきたい。

○武隈会長

アンケートについては、取り方の工夫はご意見を踏まえ、改善していきたい。アンケートは経年変化をみる部分もあるため、一般的な抽出調査も踏まえつつ、町会等の各組織にお願いし、アンケート形式や未来会議の形式とするか検討し、市民の皆様にご意見を聞いていき

たい。

前回の議論については、早く議事録を公表していきたい。検討結果は毎年3月にお返ししているが、次回の会議には検討状況について返答する。議論が進んでいないというご意見をいただいたが、検討は進んでおり皆さんには施策の方向性が見えた状況で、まちなかの電動カートについても報告したい。私自身の公約であり、私自身が最も早く実現を望んでいる。

収支の状況については、路線バスの1便当たりの利用者数はとることは難しく、暮らしのサポート便については、数値を把握しやすいため、取っていると思ってよいのか。

○事務局

1 便当たりの利用者数は、事業者からデータはいただいている。各路線で膨大な量になるため提示の仕方を思案している。運行経費がかさむ部分を今回提示しており、1 便当たりのデータを提示しなかったのは恣意的ではなく、掲載しなかった点については申し訳なく感じている。

○大上戸副会長

12月に自治振興会長会議があり、その時に公共交通のアンケートの取り方、利便性の良い運行の仕方など検討が可能である。公民館内にいると前を路線バスが通行するが、ほとんど空気を運んでいるのが実情である。公共交通の利用者だけではなく、地域でどうすれば乗車するのかが把握できるよう、アンケートの取り方を変えた方がよい。12月13日に自治振興会長会議があるため、提案をいただきたい。

○原田委員

1 便当たり利用者数は、前回の第2次網形成計画でも掲載されているものであり、膨大なデータではないように感じた。委員の皆様から様々な熱いご意見があった。実際に車を保有する方が車に乗って出かけられる環境にあると、公共交通は利用しない。本日、私は埼玉から来ているが、すべて公共交通を使う場合、朝6時に出発する必要がある。暮らしの仕方として、公共交通を使ってゆったり暮らし、その中でやりたいことをしていくことを、それぞれの人たちが考えていく必要がある。都内でバスを走らせるような運行水準は難しいため、少し不便であっても利用することを考える必要がある。

ひとつ教えていただきたい。コロナ禍において利用者が戻ってこないなどの地域でも言われており、地域全体で公共交通の運行経費があがってきている。経費の上昇と利用者が頑張っている部分とできるだけ分けて考えたい部分である。

南北循環線は、全国的にも表彰された官民連携の路線であり、利用者数は令和2年度からは減少し、また持ち直してはいるもののあまり増えない印象である。今後増加する、現在このような状況など、教えていただきたい。

○浅野委員

2020年1月から新型コロナウイルス感染症が拡大したが、2020年から2023年5月までは公共交通は控えることを会社の方針として出している。本年5月に5類となつてからは解除し、公共交通に乘車するようについており、令和5年度実績からは間違いなく利用者は増加

する見込みである。

あいの風とやま鉄道にも、車利用から転換を促しており、こちらも利用者数は戻ると考えている。南北循環線は令和4年度平均6万7千人を365日で割ると、1日当たり184人、ここでマイナスを計算すると2,100万円が赤字となる。新幹線生地線も同程度の赤字であり、5,000万円は間違いなく持ち出している。ただし、コロナの収束とともに確実に、利用者は戻ってくると考えている。

○武隈会長

経費増と人数の分析において提示できるデータは出していきたい。

大上戸副会長からご提案があったが、12月13日の自治振興会長会議に出すかは、時間的に間に合うのか、別の機会とするのかも含めご連絡したいと思う。

○浅野委員

アンケート結果はあまり変わらない印象である。アンケートでは公共交通を使わない理由は書かれているが、その後の対応策はなく疑問に感じた。

各路線についてであるが、全体が1億1千800万円の赤字、デマンドバスを除くと1億1千200万円である。各路線一日当たりをみていくと、新幹線市街地線は一日当たり33人、赤字が1,660万円、新幹線生地線は54人、2,270万円、生地循環線42人、2,190万円、南北循環は184人、2,100万円である。ある程度朝夕は乗車しているが、日中は利用が少ない状況である。28頁に公共交通のあり方が記載されており「車が使えなくなった時に利用したい」とあり、そのページの下には「引き続き税金を投入し、路線やサービス水準を維持すべき」との意見があり、改善すべき点であると考えている。

43頁の「黒部宇奈月温泉駅からの移動状況では、平日・休日ともに「公共交通を全く利用しない」状況である。55頁にはバスの増便では「平日夕方の時間帯の増便」「休日の運行」をしてほしい、バスの混雑度の改善では「平日朝の時間帯」を改善してほしい、バス乗車が楽しくなる取組の実施では「目的地のお店や公共施設と連携した取組」とあり、ほぼ市民からの要望は出ている。

菅野委員の意見も理解できるが、本アンケートにおいても既に要望は出ている。これからたくさんアンケートを取ったとしても結果は同じである。公共交通の停留所に関して要望があるが、多くの停留所が作れるわけではなく、取組にはできることと、できないことがある。

11月15日の作業部会において、当社の岡から提案についてお話した。アイシンという民間会社が、地域の方の運転で住民が乗車する移動支援サービスを、富山県内において「チョイソコ」というシステムを導入している。すべての地域に入れることは難しいが、1千万円以上赤字が出ている地域ではこのようなシステムを地域限定でも検討すべきではないか。買い物難民などの目的地までしか移動できない方には、ドア・ツー・ドアのサービスを導入してほしいとお話しさせていただいた。事務局から前向きな回答はなかったと聞いている。

○武隈会長

「チョイソコ」「ノッカルあさひまち」など、地域住民の力を借りるデマンドのあり方に

については、メリットやデメリットを事務局で整理している。一方でデマンド交通が良いとの流れもあるが、デマンドを導入している地区の方からは路線バスを導入してほしいという要望もあることは紹介しておきたい。

○浅野委員

様々な意見があるのは当たり前であり、実際にデマンドを運行している地域に、市長が実際に見に行かれて、メリットやデメリットを確認いただきたい。委員の皆さんから「検討」は「やらないこと」とよく聞いており、よろしくお願ひしたい。

○新庄委員

アンケートについてお話したい。28頁「公共交通の必要性」から見えてくるものがあると感じた。よく我々が話していることが出ている。「車が使えなくなったときに必要」83%に驚きと納得を感じた。「車が使えなくなったときに公共交通が利用できるか」とよく言われている。公共交通を利用されている人はわかるが、利用していない人は利用しづらく、わかりづらいものである。その観点からもアンケート結果を受け、「このような時に利用したらよい」という普及も必要である。委員の皆様からは「利用しよう」という意見、「実際に利用しづらい面がある」とご意見をいただいた。

実際に電車・バスを移動の際に必要としない方もおり、利用しなくても必要だという啓発も必要であり、その点については2点ほどお話しをしたい。①高齢者等は健康面でよいこと、②近年は猛暑などの異常気象があり二酸化炭素の排出を防ぐ環境面でもよいことを、市民に伝えることで実際に公共交通が身近な存在になり利用促進につながるため、取り組まれるとよいと感じている。

○武隈会長

これに関しては、SMARTふくしラボのGOトレという「出かけることが健康によい」というプログラムが実証実験中であり、後ほどご紹介したいと思う。

年度当初に、時刻表などを各地区に配布して公共交通の認知を進め、できるだけ使ってもらうように工夫をしているが、いただいた意見を踏まえ利用促進に向けて考えていきたい。

健康の観点では、議会答弁内容を紹介すると公共交通だけでは黒字にすることは難しいが、健康のことを考えるとお出かけし介護のお世話になることが少なくなれば、介護費用は1日1万円と言われており、1日出かけて1日健康寿命が延びればよいという考え方も踏まえ、議論してほしいと考えている。だからと言って赤字が良いわけではない。

○下石委員

富山市ではおでかけ定期券を発行しており、65歳以上が申請料金千円を払うと、地鉄電車や市内電車を9時から5時まで利用できニュースでも話題になっている。富山市の例を参考として、先日私が提案した免許返納者のパートナーで、免許を持っていない方も含め、お出かけの回数が増えて介護福祉料金の軽減につながるように、お出かけしやすい状況をつくる。同じ赤字であっても、どこに赤字の焦点を当てるかである。今年はこの赤字を解消するように市民にアピールできるポイントを絞る。市民の声としてよく聴くのは免許返納したくとも

できないような、公共交通を使ったことのない人たちである。この方たちは使い方がわからない。介護のお世話になる前に、公共交通機関を使って楽しみたいが、どうしたらよいかわからない。私が前回会議で発言したように、パートナーへの対応は切実な問題である。夫は半額になるが、私は免許を保有していないと満額支払う必要があり出かける回数が減少する。黒部市は、都会と違い公共交通の料金がいため、外出頻度が減少する。協議会資料は、現状に対しての取組の例示やメリット・デメリットを掲載いただきたい。

○武隈会長

ご意見は受け止めたい。

○原田委員

福祉やお出かけの取組は、現在勉強しているが、今頑張って整理している最中であり、市長もできることは実施するとの見解であるため今後期待したい。

23 頁に免許保有状況の集計がある。免許保有者が返納し、不便を感じる方は約半数である。土地柄として家族が送迎することが多い印象であり、それも含めて整理していただきたい。

調査票についてお伝えしたい。62 頁に公共交通を利用した頻度は、公共交通を利用する人が現在の移動について回答している結果にみえる。確実に回答してもらえると、良いデータになるため、今後配慮いただきたい。

○武隈会長

報告事項はここまでとさせていただき、次の協議事項に移りたい。アドバイザーである原田委員から最後に何かあるか。

○原田委員

久しぶりの出席であるが委員の皆様の熱い議論を聞くことができよかった。本日、会長である市長から直接前向きな回答をいただくことができ、良かったように思う。

協議事項

(1) 黒部市地域公共交通計画骨子(案)について

●事務局より、資料 7 に基づき説明を行った。

○下石委員

5 頁の目標指標に「公共交通で行こう」ホームページとあるが、高齢者でWEBが利用できない人への情報提供に配慮してほしい。「みんなにやさしい」とあるが、皆に優しくない。高齢者が特に困っている点であり、ホームページという言葉だけで済ませず、やさしいという言葉にもう少し踏み込んで、考え直していただきたい。

○原田委員

基本理念として「出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる 未来

へつながる公共交通」とあり、非常に目指す方向としてよいキャッチフレーズだと感じた。前の資料の22頁に外出目的ごとの交通手段があり、「⑥通所」と「⑧旅行」は公共交通を利用する人が多いとあるが、本計画の公共交通を考える際に、1. 徒歩、2. 自転車、3. 公共交通の3つがあり、グリーンモードやヘルシーモードとして連携し一体的に進めるものである。それが「出かけてたのしい」につながるため、計画書のどこかに入るとよい。

同22頁において、車以外にはデイサービス等の送迎バスを利用している人も多い。また新幹線も交通手段として多く出てくるため、その活用も計画に入れていただきたい。

○浅野委員

この骨子のたたき台は誰が作られているのか。黒部市単独で作られているのか。

○事務局

今回の計画策定においては、委託支援業務として本協議会からコンサルティング業務を委託しており、事務局と検討しながら進めている。

○浅野委員

5頁目の目標指標①については、前回からの継続指標であると「何も変わらない」と感じる。「我々はこれから変わるのだ」という意思表示がわかるように作成いただきたい。

○下石委員

コンサルティング会社の委託費は相当な金額であり、具体的な金額を明らかにしていただきたい。赤字が多い公共交通の仕組みであるため、資料に費やす金額を知りたい。

○武隈会長

委託料については今お調べしたい。ほかにご意見なければ、原田先生からご意見をいただきたい。

○原田委員

先ほどチョイソコの話があったが、機動性の高い公共交通が様々な場所で運行されている。トヨタ・モビリティ基金やトヨタの自動車販売から車を提供する例もあり、スポンサーとして病院等も費用を出しているため、費用面もよく調べた上でご検討いただきたい。

様々な交通会議で気になった点については、フェイスブックで上げるようにしている。そこに色々な事例があるため、参考にしていきたい。

○事務局

コンサルティング業務は7月に契約し、委託料は418万円である。本協議会の運営とともに、最終的には前計画である網形成計画のような冊子を作成予定である。アンケート集計・分析とともに、今回資料の骨子なども作成している。

○下石委員

春に開催した協議会とは別途会計か。

○事務局

その通りである。

○武隈会長

今回いただいた意見を踏まえ、次回の会議では骨子を修正し、計画書の素案をご提示したい。

その他

●SMARTふくしらボより、Goトレの事例紹介を行った。

○浅野委員

許容できる人数はどのくらいか。

○SMARTふくしらボ

これは介護予防の事業であり市の上限があるが、ジャンボタクシー最大2台で計16名が可能である。3か月間、月に2回外出するコースを、月～土曜日に週ごとに走らせるイメージである。

○原田委員

特定の地域を対象とするのか。

○SMARTふくしらボ

拠点である福祉センターで体操教室に参加する方を対象としている。

○武隈会長

良いシステムであれば、集まりがある拠点へ広げてほしいというお願いはしている。事例については、これで終了したい。最後に、会議で全体としてご質問はないか。

○此川委員

資料1については、重なって準備されているため、ご配慮いただきたい。

○事務局

資料の準備については了承した。

閉会（事務局）

●大上戸副会長

武隈会長には、円滑な議事運営をいただき感謝申し上げます。

冒頭のご挨拶にもあったが、来年は北陸新幹線の敦賀延伸や黒部宇奈月キャニオンルート
の一般開放などが予定されており、本市の公共交通の活性化にもつながることを期待するも
のである。

また、今回報告のあった市民アンケートの結果からは、「公共交通を維持してほしい」と
いう意見が大勢を占めており、地域公共交通計画の策定に当たっては、引き続き、各々の立
場からご指導ご鞭撻を賜るようお願い申し上げ、閉会のご挨拶に代えさせていただく。

●事務局

以上をもって第 40 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会とする。本日は、誠にありが
とうございました。

以 上